

人権ディスコースとアート 暴力の記録、記憶、「証言」と表現

細谷広美（成蹊大学）

南米ペルーでは1980年から2000年の紛争と暴力によって約7万人が犠牲者となり、うち75%が先住民の死者及び行方不明者であった。ペルー真実和解委員会は日系人のフジモリ大統領が2000年に日本に逃亡した後設置され、2003年に最終報告書を提出している。真実和解委員会の調査対象期間には①国内紛争②自主クーデター後のフジモリ政権下での人権侵害という2つの異なる暴力が含まれている。紛争の犠牲者の多くは、「民主主義政権」下の国内紛争によるもので、その大半は山岳部アンデス地域の先住民であった。しかし、真実和解委員会の委員に先住民が含まれることはなく、紛争後の平和構築は非先住民であるポスト・コロニアル・エリートを中心に進められてきた。

本発表では、先住民村出身であり、アンデスの民衆/民俗芸術であるレタブロ（箱型祭壇）制作で知られ、真実和解委員会や人権NGO等で活動してきているエディルベルト・ヒメネスの作品の分析を通じて、（1）インターカルチュラルな状況下での平和構築（2）暴力の記録、記憶、「証言」とアート表現の関係について考察する。

レタブロはもともと携帯用の祭壇として扉のある木箱の中に、キリストや聖母、聖人像をおさめるかたちで発展してきた。ヒメネス家の故郷であるアヤクチョ県では、山の神及び大地の神に捧げる儀礼の際に祭壇に置く。また、レタブロを背負って各戸を訪れ浄財を集める巡礼者も存在した。1940年代に非先住民の知識人による先住民文化復興運動であったインディヘニスモ（先住民主義）が広がると、カトリックと密接に関わる内容に加え、祭りや慣習、日常場面等を扱うレタブロ作品が民衆/民俗芸術として生まれた。アヤクチョ市はその中心となり、ロペス・アンタイやエディルベルトの父にあたるフロレンティノ・ヒメネスなど、様々なレタブロ作家が生まれ、ペルーを代表する民衆/民俗芸術の一つとなっていた。

エディルベルトは、紛争の渦中であつた80年代後半から、国内紛争による暴力を扱うレタブロ作品を制作しはじめた。その後人権NGOで先住民の証言を収集する仕事をした。エディルベルトは種々の理由で証言をテープやノートに記録できなかった際、フィールドノートに記号等を記し、それらをもとにレタブロの筆致が残る線描画を描いた。それをたまたま見たNGOの同僚が展覧会を開催し、後に証言と線描画からなる『チュンギ（*Chungui*）』が出版された。発表者は、『チュンギ』が出版される前に日本で展覧会と

シンポジウムを開催している。（文献参照）国内外のNGO、人権活動家、研究者に線描画が広く知られるようになるなか、エディルベルトは線描画と同様のレタブロ作品を制作するようになっていった。しかし、それらのレタブロ作品からは先住民のコスモロジーに基づく多様なメタファーが抜け落ち、政府軍や反政府組織による先住民の人々に対する暴力が強調されている。

エディルベルトの作品の変容は同時に、真実和解委員会や人権NGO等による証言の収集と、人々がどのように紛争や暴力を経験したかということの「ずれ」を提示している。上述のようにポスト紛争社会の平和構築においては、紛争の犠牲者の多くが先住民であつたにもかかわらず、平和構築を主導したのは非先住民であるという構図が存在してきた。このため、犠牲者の証言は、主に非先住民たちの手によって収集されるというインターカルチュラルな状況が生まれた。それ故、証言収集は「文化的翻訳」を伴わず、「犠牲者」という主体を作り上げることによるある種の「わかりやすさ」の下でおこなわれてきた。エディルベルトの作品の変容は、このように「わかりやすさ」が求められてきたことと関係している。

紛争後、「人権」という言葉が先住民言語であるケチュア語に翻訳され普及し、国際連合をはじめとする国際機関ではたとえば「*well-being*」という言葉をも「*sumak kawsay*」というケチュア語に置き換えてきている。エディルベルトの作品の変容は、これらの言葉の置き換えが、もしかしたら同床異夢であるかもしれないという問を投げかける。

Edilberto Jiménez. *Chungui: Violencia y trazos de memoria*. Lima: IEP. 2009(2005)

細谷広美「アンデスの毛沢東：先住民、プロレタリアート、農民」楊海英編『中国文化大革命と国際社会』集広舎 pp.261-293. 2016

Hosoya Hiromi “Entre el documento de violencia y la creatividad artística: desde retablos a dibujos de Edilberto Jiménez” Golte, Jürgen&Pajuelo, Ramón (eds.) *Universos de memoria: aproximación a los retablos de Edilberto Jiménez sobre la violencia política*. Lima: IEP pp.152-155. 2012

細谷広美「紛争と子どもたち—ネイティヴ・アーティスト、記録すること、表現すること」『成蹊大学アジア太平洋研究』No.35: 47-72. 2010

細谷広美「暴力の時代の歴史化をめぐる断章：証言と余白」国立民族学博物館調査報告 55:189-199. 2005

キーワード 先住民、アンデス、人権、芸術、平和構築